

第4章 試験検査

試験検査業務は、行政検査と依頼検査に大別される。

行政検査としては、健康危機管理に伴う検査、食品保健に係る検査、水質検査、臨床検査などを行った。

依頼検査としては、食品検査、水質検査、糞便検査などを行った。

第1節 行政検査

1 健康危機管理

(感染症、食中毒等関連検査)

感染症や食中毒など健康危機の発生に対し、保健所は、迅速に原因を究明し、健康被害の拡大を防止するための初動検査を実施している。

健康被害の発生に伴い、検便や食品等 検体について関係項目の検査を実施した(表1)。

このうち健康被害の原因と判明した病原微生物について、血清型、毒素型を示す(表2)。

検査項目	カンピロバクター	27	10	16	—	53
	セレウス菌	27	11	16	—	54
	ウエルシュ菌	27	10	16	—	53
	大腸菌等	—	1	—	—	1

ノロウイルス(PCR等)は保健環境センターで実施した。

表2 健康被害の原因と判明した病原微生物
平成24年度

発生日	検体	原因病原微生物
5	食品	クトア・セプトンタータ
5	便	サルモネラ属菌(07,08)
8	便	腸炎ビブリオ(03,K6)
10	便	ウエルシュ菌
11	便	黄色ブドウ球菌
11	便	ノロウイルス(GII)
12	便	ノロウイルス(GII)

表1 健康被害発生に伴う検査

平成24年度(単位:件)

検体の種類		便・吐物	食品	ふきとり	浴槽水	菌株	計
検体数		43	14	21	—	—	78
検査項目	赤痢菌	—	—	—	—	—	—
	腸・パラチフス菌	—	—	—	—	—	—
	腸管出血性大腸菌	—	—	—	—	—	—
	ノロウイルス(IC法)	—	—	—	—	—	—
	ノロウイルス(PCR等)	9	—	—	—	—	9
	レジオネラ菌	—	—	—	—	—	—
	大腸菌群(定量)	—	—	—	—	—	—
	サルモネラ属菌	33	13	21	—	—	67
	病原大腸菌	27	11	16	—	—	54
	腸炎ビブリオ	27	11	16	—	—	54
黄色ブドウ球菌	29	12	16	—	—	57	

2 食品保健

(1) 食品衛生一斉監視指導等

食品製造事業者等に対し、春・夏期及び年末の食品衛生一斉監視指導に伴う収去食品について、細菌検査を実施した(表3)。

表3 食品衛生一斉監視指導等による収去検査
平成24年度(単位:件)

区分	食品		ふき取り検査	合計	
	成分規格	県指導基準			
検体数	38	48	4	90	
検査項目	生菌数	—	48	—	48
	大腸菌群(定性)	14 (1)	13	4	31 (1)
	大腸菌群(定量)	—	—	—	—
	大腸菌(定性)	—	48	4	52
	サルモネラ属菌	—	48	4	52
	黄色ブドウ球菌	—	18	4	22
	セレウス菌	—	—	—	—
	カンピロバクター	—	—	4	4
	腸炎ビブリオ(定性)	—	—	—	—
	腸炎ビブリオ(定量)	24	—	—	24

()数字は不適数

(2) 食鳥処理場一斉点検

管内の食鳥処理場1施設について、食鳥処理の工程ごとのふき採り物等13検体について細菌検査を実施した(表4)。

表4 食鳥処理場一斉点検

平成24年度(単位:件)

区分	拭取り	冷却水	合計	
検体数	12(9)	1	13(9)	
検査項目	生菌数	12	1	13
	大腸菌群(定量)	12	1	13
	黄色ブドウ球菌	12	1	13
	サルモネラ	12	1	13
	カンピロバクター	12(9)	1	13(9)

()数字は検出件数

3 水質検査

海水浴場水について、管内4ヶ所の海水浴場で開設前と開設中の年2回採水し、水質検査を実施した(表5)。

表5 水質検査 平成24年度(単位:件)

区分	海水浴場水	
検体数	26	
検査項目	レジオネラ菌	—
	pH	26
	COD	26
	糞便性大腸菌群数	26
	腸管出血性大腸菌O157	6

4 臨床検査

(1) 梯川流域住民健康調査

心電図検査を2件実施した。

(2) HIV抗体検査

免疫クロマトグラフィー法によるHIV迅速検査を119件実施した。